

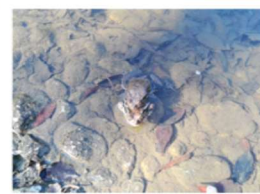
事業報告概要書（公表版）

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
都市部の公園・東部グループ		(指定管理者名) アメニス東部地区グループ			
		(団体の概要) 代表団体：株式会社日比谷アメニス			
指定期間		構成団体：日建総業株式会社			
R05.04.01～R10.03.31(5年間)					
2 施設名		3 収支(単位:千円)			
猿江恩賜公園 亀戸中央公園 尾久の原公園 東綾瀬公園 中川公園 大島小松川公園 宇喜田公園			令和7年度	令和6年度	令和5年度
	項目	金額	金額	金額	公園列支出額
	収入 計	792,390	708,602	682,887	猿江恩賜公園 137,458
	内訳	指定管理料	792,390	708,602	682,887
		利用料金	0	0	0
		その他収入	0	0	0
	支出 計	792,390	708,602	682,887	尾久の原公園 56,497
	収支差	0	0	0	東綾瀬公園 155,015
4 管理運営の概要					
「TOKYO PARK Labo」をテーマ、「パークコミュニティ」をキーワードに、人と公園がつくる地域で東京の魅力を増幅することを管理運営方針とした。異常気象の影響もあり、6月から11月まで猛暑が続き、落葉樹が葉ぶるいしたり、立ち枯れしたり、またその影響か突風による倒木や枝折れも発生した。東京都からの要請もあり、緊急樹木点検を実施、雨水最終枡の点検など、植栽管理や維持管理での苦勞が多かった。樹木点検講習会を年2回実施して、のべ45名が参加、樹木点検の知識を高めた。各公園において防災や公園の利活用について自治会や関係団体と打合せの場を持ち、防災フェスタを開催した。また複数の公園で、臨時売店（キッチンカー）による飲食を提供し、利用者ニーズに応え、課題解決を図った。					
5 管理状況					
①維持管理					
安全管理に重点を置き、各々の作業において危険予知活動を行っている。安全パトロールを毎月2公園ずつ、4カ月に1回実施、事故や災害情報をメールや掲示板機能で共有した。樹木管理では東京都の指示で緊急樹木点検を7公園で実施した。また年2回「樹木点検講習会」を樹木医の指導の下で実施、延べ45名の維持管理職員が参加した。樹木を目視点検するポイントや点検台帳の内容について確認した。増額予算「大径木管理」を重点的に実施し、東綾瀬公園を中心に公園隣接地にある樹木について大規模な剪定作業を行い樹高調整を図った。都民協働において、ハーブや花を活用した新たな公園の魅力作りを推し進め、宇喜田公園のハーブガーデンの活動、大島小松川公園自由の広場大花壇での活動、東綾瀬公園でのハーブガーデンでの活動が充実し、公園ならではの魅力を創出した。施設・設備管理では、令和6年度より取り入れた建築物清掃管理評価者による公園全体の「清掃品質評価」を年3回実施、指摘事項を常に是正し利用者が気持ちよく使用できる環境を保つことができた。猿江恩賜公園、亀戸中央公園のテニスコート照明については適切に対応しており、不具合を未然に防いでいる。また利用者からの施設や設備の要望にも適切に対応した。大島小松川公園の六価クロムと尾久の原公園のダイオキシンについては、細やかなリスク対応を毎日行っている。結果利用者からのクレームは1件もなく、適切なリスク管理ができている。東京都が取り組んでいる「再生エネルギーの利用を推進する」ため、電力供給先を変更し、「都立公園初の再生可能エネルギー100%の電力による公園管理運営」を継続している。大島小松川公園においてデジタル樹木台帳を作成、次年度以降には他公園に展開する。					
②利用者への対応					
【猿江恩賜公園】公園魅力向上のため様々なイベントを実施、4月に3日間にわたり、チューリップフェスタを開催した。気候に恵まれなかったが悪天候のなかでも、1200人の参加となった。また夜間の寒さを考慮し終演時間を早め、参加者からも高評価をいただいた。【亀戸中央公園】サザンカの名所復元に取り組んだり、QRコードを活用した「はなもく散歩」を導入、親しみがわくような取組みを実施した。アクセス数も年間で8218回と大幅にアップした。【尾久の原公園】park:mottoは総合型イベントに発展、立ち寄った利用者が次なる出店者となる好循環が生まれ、開始時(令和6年10月)5店舗が、2年半の現在登録団体が110団体にまで拡大、毎月開催、のべ4,000人以上が参加している。【東綾瀬公園】2月の「防災フェスタ」では、足立区、足立消防署、綾瀬警察署、トヨタモビリティーと今回新たに加わった足立消防団(ボランティア団体)と連携して「地域防災フェスタ」へと拡大開催した。多くの参加者から感謝の言葉を頂戴した。【中川公園】季節を通してサービスセンター前を利用者とともに飾りこにより、公園の周知にも寄与した。「おに退治ゲーム」、「カボチャの重さ当て」など、新しいイベントを企画して、利用者の参加を増やすように努力した。【大島小松川公園】大花壇ではボランティアにより、ネモフィラや菜の花、コキアなどの花修景を作りだし、公園の魅力アップに大きな成果を残すことができた。このことが評価され、令和7年度には大花壇においては「第36回緑の愛護功労者 国土交通省大臣表彰」と「江戸川区第14回景観まちづくり賞」をダブル受賞した。【宇喜田公園】防災活動については、公園主催の「都立宇喜田公園防災フェア」を年3度開催した。「ペット防災」を新たなプログラムに加え、江戸川区保健所が協力、ブースを出展。当日は多くの犬の飼い主が来場し、新たな参加者層を呼び起こした。バリアフリー対応として、ハーブガーデンの根上り段差を修繕、車椅子用入口の改修も行い、安心安全の確保に務めた。					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
猿江恩賜公園	4.5	4.6	3.4	4.1	4.1
亀戸中央公園	4.5	4.5	3.7	4.3	4.2
尾久の原公園	4.5	4.5	4.1	4.5	4.4
東綾瀬公園	4.6	4.3	4.0	4.2	4.0
中川公園	4.5	4.4	4.1	4.4	4.5
大島小松川公園	4.6	4.5	3.7	4.2	4.3
宇喜田公園	4.5	4.4	3.7	4.1	4.0
7 入園者数の状況(単位：人)					
施設名	当該年度	分析			
猿江恩賜公園	1,469,777	北園バリアフリー工事に伴う江東こども祭り中止、江東公会堂の改修工事により利用者減。			
亀戸中央公園	1,902,122	酷暑期と厳寒期の影響により、保育園の団体利用に大きく影響している。			
尾久の原公園	788,231	日常使いの利用者の多いこの公園では、気候や天候による影響が利用者の増減に大きく影響している。			
東綾瀬公園	2,575,975	前年比91%で夏が酷暑であったことが要因。祭り等での利用やイベントでの集客効果もあった。			
中川公園	799,657	前年比91.8%で減少の要因については猛暑などの天候変化が考えられる。			
大島小松川公園	1,314,670	テニスコート利用者数や公園利用者数が増加、適切な維持管理が達成できたことが増加の要因。			
宇喜田公園	546,212	草刈回数を6回から12回に増やし、スポーツ広場の利用者数が増えた。			
	9,396,644				

猿江恩賜公園

歴史とみどりが息づく公園

- 自然豊かな公園を目指して
- 多様なイベントと魅力発信
- DX活用による広報
- 環境に配慮した公園管理



自然豊かな公園を目指して

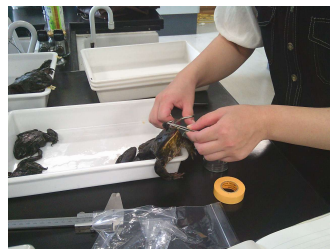


生物多様性保全と地域の繋がり

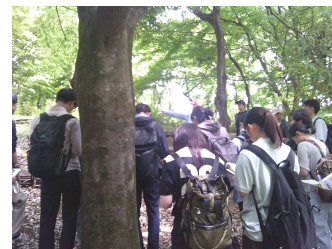
都立科学技術高校との協働作業や東京農工大学や環境工科専門学校の授業、中学生職場体験での生物多様性を学ぶ体験の実施など教育機関との結びつきを更に強固なものにした。



科学技術高校アズマネザサ区画の草地化及びカエルスロープ設置



東京農工大学研究のためウシガエル提供



環境工科専門学校授業の講師として協力



中学生職場体験において生物多様性について学ぶと同時に、樹木点検や粗朶柵作り外来植物駆除などを行った。

生物多様性のための維持管理を実施

多様な生き物が生息する環境を整えるため、エコスタックや粗朶柵の補修や設置など維持管理を実施した。



エコスタック補修



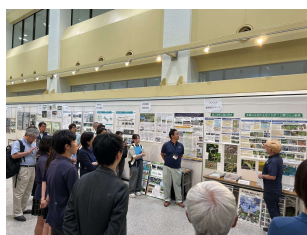
在来種・希少種の保護



粗朶柵の設置・補修

生物多様性フェア参加などの普及啓発

江東区生物多様性フェア2025に参加、28団体が参加している。ポスターセッションで公園の多様性保全について説明を行った。また、エクスカーション(現地視察)の会場にも選ばれ、現地で多様性保管理について説明している。また観察会などイベントも実施した。



ポスターセッション



エクスカーション



森林インストラクターを招いての野鳥観察会開催

多様なイベントと魅力発信

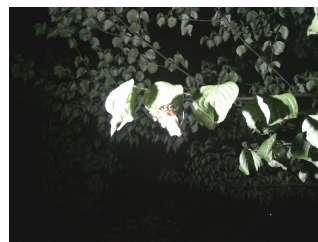


様々なイベント

公園の魅力を伝える自然観察会を毎月実施した他、季節の花々を届けるボランティア活動やクラフトワーク、植物の魅力を音楽とともに楽しチューリップコンサートなど多種多様なイベントを実施した。



自然観察会



セミの羽化観察会



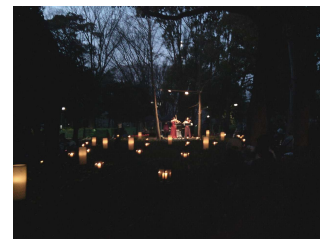
花壇ボランティア



チューリップ球根の植付



サツマイモの苗植付



チューリップの杜コンサート

DX活用による広報



ロボットを使った情報発信

コミュニケーションロボットを導入し、子供向け情報発信を実施した。マスコットキャラクターのゴリオを象ったかわいらしいロボットによる公園案内や公園に関するクイズ、絵本の読み聞かせを行った。期間中1000名以上の方が利用した。江東こども祭りにてブースを出展した際には、ロボットは参加者を集めるのに大活躍し、500名の方が参加した。

コミュニケーションロボット
(ゴリオロボ)

森の絵本の読み聞かせ



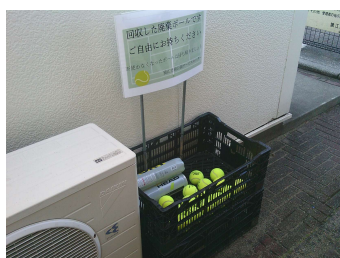
江東こどもまつり

環境に配慮した公園管理



環境にやさしい公園づくり

生態系に影響があるといわれているマイクロプラスチックの流出を防ぐため、排水桝に流出抑制のための仕組みを設置、テニスコート整備用ブラシをナイロンからシダに変更するなど対策をした。また、廃棄され分別が大変であったテニスボールについて再利用するための回収籠を設置した。

マイクロプラスチック流
出抑制対応桝

テニスボールの再利用



テニスコート整備用ブラシの変更

亀戸中央公園

都会でみどりが学べる公園

- 公園資源を活用した遊びキャラバンの充実
- サザンカの名所の復元
- 学べるみどりの魅力発信とDX推進
- 地域との連携、防災機能を強化・充実した公園



公園資源を活用した遊びキャラバンの充実



子供の想像力をかきたてるイベントの提供

遊びキャラバンでは、公園にある素材を生かし子供たちの自由な発想での木の工作やドングリイベントなど実施した。令和7年度は14回の開催で1,600名を超える方々に参加いただいた。参加された親子からは、自然の素材をふんだんに使った工作は家庭や学校では、なかなか難しいため、非常に好評を喜んでいただいている。また工作の手順書も子供たちにも分かりやすいように職員の手書きでイラストを多数取り入れた。



大人のためのイベントを開催

要望がある大人向けのイベントを本年も実施した。公園の花や葉を利用した大人のためのたたき染や、大人向けのセミの羽化の観察会や剪定枝配布等実施して延べ950名の皆さんに参加いただいた。



大人のためのセミの羽化観察会



大人のためのたたき染め



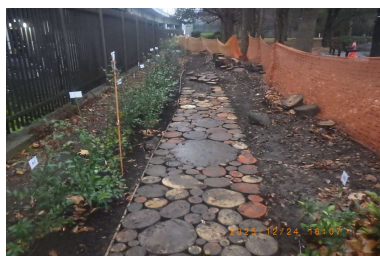
サザンカガイドツアー

サザンカの名所の復元



日本ツバキ協会より提供の稀少種の育成とサザンカロードの完成

サザンカは江東区の花でもあり、亀戸中央公園の見どころであり、約50種、4000本管理している。日本ツバキ協会よりご提供いただいた希少種の挿し穂は約6年かけて育成し、大きくなってきた。そこで、来園者の方々に鑑賞していただくため、「サザンカロード」を整備した。



学べるみどりの魅力発信とDX推進



はなもく散歩®を活用した公園運営

QRコードを読むことで、樹木の音声ガイドや解説をスマートフォンで楽しめる無料のWebガイドアプリ「はなもく散歩」を、令和7年度は本格的に始動した。はなもく散歩を活用することで、利用者はいつでもどこでも樹木や公園の情報を確認することができるようになった。アクセスユーザー数及び表示回数ともに増えており、4月以降毎月300～400人のアクセスがあった。2月は単月で1000人を超えており、年間で5425人のアクセスがあり、需要と認知度の高まりを実感した。東京都の施設では初めての登録となっており、来年度以降も引き続き樹名板の設置やデジタルマップの拡充を行いながら、団体利用プログラムの提供やクイズラリーなどの企画実施を充実させていく。



木と出会う散策マップ



QRコード付き樹名板



デジタルマップ



施設情報・樹木情報

地域との連携、防災機能を強化・充実した公園



近隣住民と一体になった防災訓練の実施

近隣の町会やマンションの自治体を中心に警察・消防の協力のもと防災訓練を実施している。当公園からも防災トイレ、かまどベンチの設置方法の演習を実施した。本年も500名近い参加者となった。また7年度からは城東消防署員が公園に出向き、訓練を推進する「まちかど防災訓練」を実施した。ここ数年は大規模災害が頻発している為、参加者は熱心に取り組んでいた。



亀戸中学校職場体験

本年も職場体験学習として、江東区立亀戸中学校の生徒5名を受け入れた。多岐にわたる公園管理の業務を体験し、その仕事量の多さに驚きとともに大変さを実感していただいた。



尾久の原公園

水辺のいきものとふれあえる街中公園

- 地域と共にある公園 地域と地域が出会う公園
- 生物多様性の向上と発見の創出に向けて
- “自然の豊かさ”を生み出す維持管理



地域と共にある公園 地域と地域が出会う公園



地域で活動する人や団体、利用者、それぞれの企画や取り組みを実現・体現できる空間として公園が機能した。実施者と参加者、管理者と利用者といった、サービスの提供者と受益者という構図を超えた公園づくりで、みんなが一体となったイベントや日常が生まれた。

park:motto

公園で「やってみたいこと」を形にする月1回の出店イベント

- 当初は飲食店が中心だったが、クラフトワークや体験型ワークショップ、ラップや弾き語りの表現活動など、総合型のイベントに発展した。
- 立ち寄った来園者が次の出店者になる好循環が生まれている。開始時（令和6年10月）には5店舗だったものが、現在では出店希望の登録団体が110団体にまで拡大した。
- PTA連合会との「追いかけてこ」企画や障害者支援団体、区内のデザイナーとのコラボによるお絵描き教室など、地域が公園を活用し、新たな団体が出会う場ともなっている。



季節のフェスタ

季節毎にテーマを掲げ、地域の方々と作り上げる大型イベント

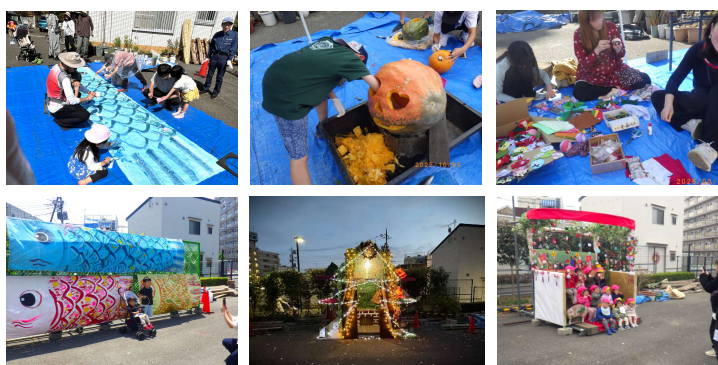
- 地域の7団体が参加した「つなぐ→つなげるピクニック」では、世代や国籍を超えて楽しめる企画が行われた。
- 餅つきと民間行事の餅花づくりを開催した。町会など地域コミュニティによる餅つきが減った昨今、初体験の方も多く、継続的な開催を求める声が多数寄せられた。
- 「見る！知る！守る！おぐのはら防災」には行政や消防、市民団体、計10団体が参加し、防災・減災に向けた取り組みをアピールした。



季節の装飾展示

季節の行事をテーマに利用者とオブジェを作り、飾る

- オブジェの制作は誰もが気軽に参加できる人気企画となっている。制作している子どもの友達が立ち寄り、保護者達が井戸端会議を始め、気が付けば毎回人の輪ができた。
- 利用者と作る装飾は、地域の話題のスポットとして毎回多数の方に立ち寄っていただいた。



公園サポーター

利用者それぞれの関わり方で「自分たちの公園」を作り出す

- 公園サポーターの取り組みは多岐にわたる。毎週末の花壇への水遣りや花殻摘み、子どもボランティアによる年に二度の花壇の植え替え、犬の飼い主による園内清掃や剪定講習受講生による月に一度の剪定作業、希少植物の管理観察、学校帰りに落ち葉清掃など、利用者がそれぞれの関わり方で、「自分たちの公園」を自主的に守り、育てている。



地域と共にある公園 地域と地域が出会う公園



行政組織との連携

- 尾久消防署による毎月1回の消火訓練の実施
 - 国土交通省荒川下流河川事務所、尾久消防署、荒川区防災課、荒川ボランティアセンター等、地域の10の団体と協働した防災イベント「見る！知る！守る！おぐのはら防災」開催による防災・減災の啓発活動
 - 尾久警察署の年2回の交通安全キャンペーンの受け入れや、3月月間目標の「不審者対策の周知」に合わせた防犯企画の共催など
- ※年間を通じて行政との連携強化に努めた。

教育機関・地域団体/NPOとの連携

- 近隣の小中高校のマラソン大会や生物観察
 - 中学校の職場体験受け入れ
 - 高校の課外授業への講師派遣、高齢者のための街づくりプラン作成の授業への協力
- ※事前打合わせを行い、より濃密な内容に。
※連携したのは大門小学校、第七峡田小学校、荒川第五中学校、北豊島中高等学校など
- 子育て支援団体や不登校の小中高生の支援団体の要望に応え、集まりの場を提供
- ※子育て支援サロンiroToriDori、こども村ホッとステーション、里親フォostリング機関等



生物多様性の向上と出会いの創出に向けて



自然観察会 荒川区環境課との連携により毎月1回実施。季節ごとにテーマを設けての観察会は、参加者の生き物への興味をかきたてた。昨年設置したインセクトホテルも越冬昆虫の観察ツールとして大いに活用された。
※年間で総勢100名以上が参加した。

自然観察会 スピンオフ企画



【尾久の原ヒーローズ】

園内の植物や生き物のオリジナルトレーディングカードがもらえる企画。全16種類のカードを求めて参加者たちがミッションに挑んだ。

虫の王国 虫のシーズンである5月から10月にかけては水辺とはらっぱ広場との境界に刈り残しのエコトーン＝生態系の移行帯「虫の王国」を建設し、生き物たちとの出会いの場を作った。土日祝日、夏休み期間は「王国」に子どもたちの姿が絶えることはなかった。



【バウンティハンター】

園内や区内での確認例が少ない生き物を探す企画。期間中は「ハンター」たちで園内が賑わった。



“自然の豊かさ”を生み出す維持管理



開放水面の維持 手作業による抽水植物の刈込を春から夏にかけて実施し、トンボや水鳥の生息環境の維持に努めた。

ゾーニングによる管理 湿地では状況や条件に応じた刈り高の調整を行い、動植物の生息・生育環境安定をはかった。

希少種の拡大 生育環境安定の取り組みによりタコノアシなどの準絶滅危惧種は増加傾向で、群落が3倍以上に拡大した。



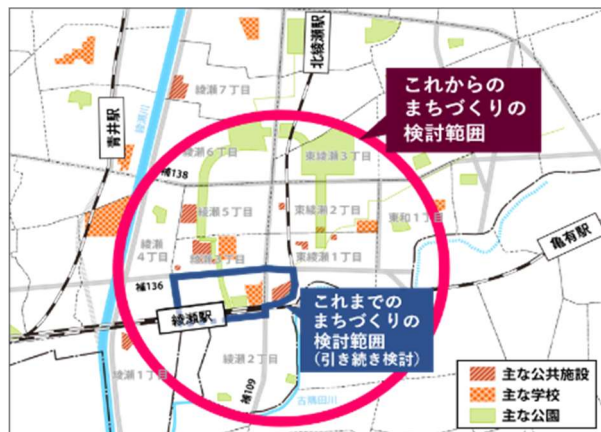
東綾瀬公園

緑の中でからだ動かす多世代交流公園

- 公園としてのパートナーシップの充実
- スポーツによる健康づくりのための環境整備
- 住民の生活に寄りそうみどりの管理

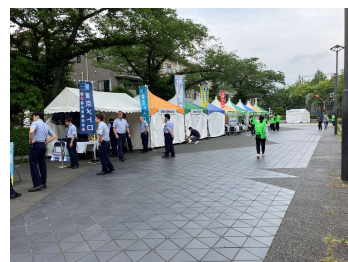


公園としてのパートナーシップの充実



足立区HPより

足立区による「綾瀬駅東口周辺地区 地区まちづくり計画」に基づきバスロータリーが開設され、高層マンションの建設が進められている。交通広場と公園の一体的整備が進むとともに多世代化が促進される中、都立公園としても、地域住民や団体との協働を推進するため、気軽に参加できる多世代交流イベントの開催、足立区や自治会、園内にある施設管理者との連携による関係強化、都民参加の花壇づくりや園内清掃を通じた団体・グループ・個人単位での協働などパートナーシップの充実を図り、公園を中心として輪が広がった。



季節のイベント開催
「防災フェスタ」をはじめ自主事業では数百名が集まる多世代交流の場づくりに取り組んだ。



地域の催事への協力
「しょうぶまつり」、「美化運動」等が開催され、区や自治会と安全安心な運営に向けて連携を図った。



園内各施設との連携
東京武道館「武道・スポーツフェス」、すいすいランド「水難訓練」など、横断的連携を強化した。



ボランティア充実
公園イベントと連動したボランティア活動の紹介、公園と一体となった地域交流への後押しを行った。



スポーツによる健康づくりのための環境整備



スポーツ施設や運動広場はスポーツを快適で安全に楽しめるように整備した。近隣住民からの要望を受けて野球場の土埃が住宅に飛ばないように防砂ネットの補修やグラウンドの整備を180回以上行った。近隣の学校や保育園の課外授業や持久走大会などでの公園利用時には事前に除草、落葉清掃や不陸修繕を行った。



健康づくりを支援
ゲートボール大会や「パークで筋トレ」の開催を支援し、高齢者が参加しやすい活動スペースを整備。



運動施設の整備

野球場整備や庭球場の砂入れは、天候や利用状況に応じて作業頻度を調整し、快適な利用環境を維持。



住民の生活に寄りそうみどりの管理



園路は通勤、通学の重要な経路として利用者が多く、公園を仕切る区道も交通量が増加している。園内区道沿いには高木や低木も多く、日々の巡回を通して障害箇所の把握と対処を進めている。住民から要望があがった日照の確保や落葉の散乱に対処した。今後も住宅地に隣接した公園として住民の声も尊重し、毎日の安全・安心確保に取り組み、緑豊かで近隣住民の住みやすいまちづくりに貢献する。

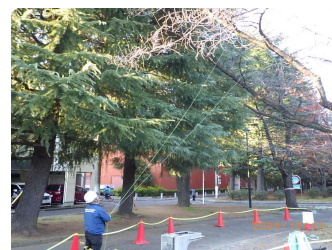


駅前に華やぎ添える花壇



A地区円形花壇

綾瀬駅前には再開発工事が進行中、駅前プランターに花苗を絶やさず植えて毎日往来する通行者の目を楽しませると共に園内に点在する花壇への誘致を図った。



通行者の安全確保

通勤・通学経路として利用頻度の高い園路を重点的に整備し通行しやすい環境を整えた。



フラスの発見



寄生樹木の伐採

巡回時に発見したフラスから特定外来生物の寄生を発見。当グループの樹木医の診断を受けて速やかに伐採を行った。緑地の安全確保のため計画的に樹木点検を実施した。



車両の安全確保

カーブの見通し障害、越境枝等に対処し周辺の交通環境にも配慮した整備を行った。



中川公園

地域にとけこむふれあい公園

- 公園をより楽しむ機会の提供
- 資源を活用した自然理解の促進と地域交流
- それぞれの楽しみ方を見つけられる公園へ



公園をより楽しむ機会の提供



公園由来の材料で楽しむ

どんぐりや松ぼっくりなど公園で手に入る自然由来の素材を使用したおひな様やクリスマスリース工作イベントなど、公園で思い出を自宅に持ち帰れるクラフト製作を実施し多くの方に参加いただいた。



オリジナル展示で楽しむ



サービスセンターを身近に感じていただき、利用者に楽しんでいただけるよう到来園の記念となる季節毎の顔出しパネルを年間を通して12回以上更新した。利用者との話題づくりにも貢献している。他にもハロウィンやクリスマスなどの利用者と一緒に作り上げる展示を実施した。

季節を感じる装飾で楽しむ

四季折々を象徴するイベント装飾を実施した。利用者にイベントに参加しながら季節の装飾を鑑賞し、楽しんでいただいた。こいのぼり、七夕の短冊作り、ハロウィン装飾のカボチャを使った重さ当て、節分のおに退治ゲームなど、参加型の装飾と新たな公園の楽しみ方を発信した。



おばけカボチャの重さ当て



皆で作った鯉のぼり



節分のおに退治ゲーム



七夕飾り



クリスマス装飾

資源を活用した自然理解の促進と地域交流



自然とふれあえる機会の提供

11月30日に近隣住民6名の参加を得てもみじ鑑賞ツアーを開催した。もみじゾーンの他、中川公園のA地区1,2階の公園の樹木などを観察した。また、夏・冬に2回星空観察会を実施し、40名の方に参加いただいた。



熱心に講師の説明を聞く参加者



中川公園の夜間の暗さを利用した星空観察会年2回開催

地元小学校との農園作り

A地区2階の学校農園エリアで、中川小学校、北三谷小学校の児童が土壌整備、植付け、収穫等行い土との触れ合いを楽しんだ。延べ480人の児童が参加した。



ジャガイモの収穫を楽しむ
中川小学校児童



サツマイモの苗植を楽しむ
北三谷小学校児童

サクラを通じた地域交流

「サクラの講義とサクラの元気度調査」を開催し、地域の(株)URコミュニティやころつえ地域相談所と近隣住民の方々18人に参加いただいた。



当グループ樹木医によるサクラの講義



サクラの元気度調査

それぞれの楽しみ方を見つけられる公園へ



四季折々の花や公園での活動の多様性を向上

日々の管理により充実した樹木や草花を利用者に見ていただくことができ、年間を通して多くの激励・感謝をいただいた。



新たな遊具エリア完成

B地区に健康遊具3基が新設された。老若男女を問わず利用されている。



チューリップの球根回収ボランティア

B地区の花壇で実施した。多くの親子連れに参加いただいた。



大島小松川公園

自然を肌で感じるアクティブパーク

- 地域との協働・関係機関との連携強化
- 課題解決に向けた新たな取り組み
- 広場を活用したイベントの実施
- 安心・清潔な公園づくり



地域との協働・関係機関との連携強化



消防署・警察署・区役所等と連携した防災プログラムの実施 地域イベントへの参加や近隣小中学校の職場体験の受け入れ

・防災プログラムの拡充

令和7年度は、11月・3月「火災予防フェア」、12月「育樹大会に合わせた防災施設（防災トイレ）の案内・説明」の大規模イベントを地域団体と連携して実施した。また初めて6月・10月に城東消防署の協力を得て「消火訓練」を計画し、近隣住民の防災意欲の向上に取り組んだ。



火災予防フェア【秋】



火災予防フェア【春】
ハザードマップ配布



火災予防フェア【春】
グリーンインフラ案内



育樹大会
防災用仮設トイレ案内

・近隣小中学校職場体験の受け入れ

令和7年度は新たに中学校1校を追加、小学校は同月に2グループの職場体験を受け入れた。植栽管理（樹木点検・落葉清掃）等を体験してもらい、地域において公園が担う役割や仕事に対する姿勢への理解を得る機会となった。



中学校の職場体験



小学校の職場体験



・地域イベントへの参加

9月13日に季節の広場南で開催された地域イベント「まつりだワッシュヨイ小松川」に公園としてコロナ禍以降初めて20時まで輪投げの出店を実施した。公園らしいイベントは好評で地域コミュニティの醸成に寄与した。



輪投げの様子【昼】



輪投げの様子【夜】



手作りのお持ち帰り袋



発生材を活用した投げ輪

課題解決に向けた新たな取り組み



近隣町会・自治会・PTA等との「パークミーティング」の拡充

令和3年度に始まった「パークミーティング」も5年目を迎えた。これまでの近隣町会・自治会・小学校PTAに加え、今年度は新たに地元自治体（江東区及び江戸川区）にも参加いただいた。主に夜間利用や騒音・違法駐車などの課題や新たな取り組みに関するご意見をいただくとともに、公園は巡回強化や注意看板設置、園内のネズミ駆除に取り組んだ。今年度も引き続き地域連携の強化に焦点を当て、公園で実施したいイベント等について提案を行った。また、公園内スケートボード禁止を踏まえ、引き続き当公園スケートボード愛好会との意見交換会とスケートボード体験会を実施した。意見交換会では「公園でのスケートボード禁止に係るマナーとルールの徹底」を主題に、愛好会と連携し、禁止やルール順守の園内掲示の強化に取り組み、苦情・要望や口頭注意、器物破損の件数は大幅に減少した。一方、体験会は4月以降11回開催するとともに、12月には啓蒙トーク・デモンストレーションを同時開催し、延べ105名が参加された。愛好会との意見交換会で出た意見や提案を前述のパークミーティングで共有し、合意形成を図りながら活発な意見のやりとりを行うことができた。

令和8年度は、更に近隣住民の方々との協働を図ることにより、管理運営・利用促進のステップアップに繋げて行きたい。



パークミーティング



初心者向けスケートボード体験会の開催

広場を活用したイベントの実施



東京ドーム1個分の広さがある自由の広場でのイベント開催

当公園最大の芝生が広がる自由の広場を活かしたイベントを年間を通じ開催している。自然の中で体を動かす「スポーツフェス」、人気の高い広い空を活かした「星空観察会」、100以上の凧が空を舞う「凧づくり」、ペットマナーアップ活動「わんちゃんとの暮らし方教室」などを開催した。その他、総勢約200体が参加したティラノサウルスレースの開催を通じて近隣の大島中の橋商店街との連携を図っている。



わんちゃんとの暮らし方教室



スポーツフェス
2026



星空観察会



凧づくり2026



ティラノサウルスレース

安心・清潔な公園づくり



六価クロム滲出現場の点検、洗浄、還元処理等の滲出対策の実施

・3人体制で毎日4回の点検

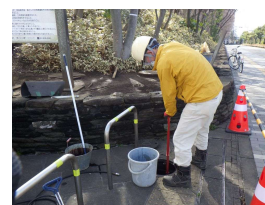
巡回員2名と責任者1名により毎日午前と午後各2回の点検を行っている。なお、東京都からの要請により、隣接する公道（園地外）に滲出した石灰質と思われる白色物質が確認された場合には、園地内と同様に洗浄処理を行っている。

・高圧洗浄

汚染水は地下の有孔管に流れ込み還元処理施設に導かれるため、適宜有孔管やINの管の高圧洗浄を年3回程度、安全対策を整えて実施している。



有孔管の高圧洗浄



接続樹の浚渫



北側処理施設高圧洗浄

宇喜田公園

人と街を緑でつなぐ公園

- ハーブボランティアの躍進
- 周辺地域の防災強化
- 要望への対応



ハーブボランティアの躍進



国土交通省「全国第36回みどりの愛護のつどい」にて感謝状授与

平成29年4月より発足したハーブボランティアが当年も躍進した。毎週水曜日の定期活動を継続し、年間活動日数延べ200日、活動人数延べ1000人と花壇のグレードアップは年々進み、今や園内の注目箇所に変貌した。同団体は令和7年6月、千葉県松戸市内で開かれた「国土交通省全国第36回みどりの愛護のつどい」の式典会場に招かれ、感謝状を拝受した。

表彰理由は「みどりの愛護に優れた活動を行い緑化推進におけるその業績は誠に顕著（原文抜粋）」であるため。同団体はラベンダーを育成し、景観の向上を図ると共に、ハーブの育成にも力を入れ、収穫物は地域の方々へ配布し、鑑賞以外に美容等に使える楽しさを伝えて来た。その経緯と活動が評価され、国土交通省からの表彰に至った。



ボランティア活動中の1枚。「水曜日ここに来て、皆に会う事が楽しみ」。このチームワーク、コミュニティ、雰囲気の良いさがガーデンパークを変貌させた。

表彰の内定は令和7年5月、国土交通省のホームページで報じられ、地元議員からはハーブボランティア宛に祝電報が届いた。式典の様子は一部の新聞にも報じられ、後日その旨を知った他公園の花壇ボランティア団体が来訪し、当現場内を視察した。



式典会場で記念撮影

第36回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰 受賞団体			
No.	団体名	活動地	別
43	千葉県南房総市花の会	千葉県南房総市	千葉県南房総市
44	千葉県市川市市民会館ガーデニングボランティア	東京都市川区	東京都市川区
45	宇喜田公園ハーブボランティア	東京都江戸川区	東京都江戸川区
46	東京都緑化推進協議会	東京都葛飾区	東京都葛飾区
47	東京都花壇の会	東京都葛飾区	東京都葛飾区

国土交通省のHPで公表

配布会でハーブのおすそ分け

夏のラベンダー配布会に続き、秋には剪定したレモングラスなどのハーブ約20種類の配布会を実施し、配布会はボランティア会員と利用者が交流する場にもなった。「ハーブは手に入れるのが難しいから嬉しい」と喜ばれた。



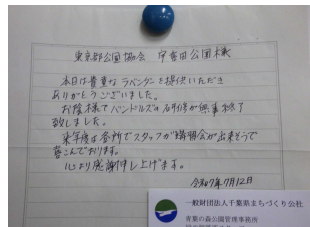
6月のラベンダーの配布会には約150名が来場された。



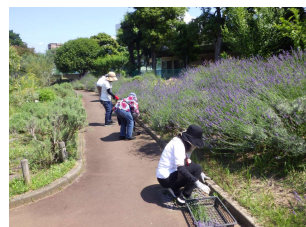
10月の収穫ハーブの配布会では約20種類のハーブを配布した。

ラベンダーの提供

令和7年7月、千葉県まちづくり公社からラベンダーの提供依頼を受け、対応したところ、後日お礼文を頂戴した。また、他公園や地元の団地からも、ラベンダーの提供依頼を受け、その都度快諾して、提供発送した。



千葉県まちづくり公社からの礼文。当現場の存在が遠方にも知られた。



提供したラベンダーの収穫風景

周辺地域の防災強化

都立宇喜田公園防災フェアの継続

令和6年に続き令和7年も当園にて「都立宇喜田公園防災フェア」を主催した。令和7年度は6月に第5回大会、10月に第6回大会、令和8年3月に第7回大会を開催した。防災をテーマに、近隣の大規模病院と葛西消防署、江戸川区と連携して開催した。

回を重ねる毎に子供の参加が増えており、近年はリピーターも現れ、予想以上の参加者数に各行政等も喜んでいる。参加者へは「AEDも消火器も、一度体験して下さい。防災トイレも見て下さい。防災時用の井戸も一度動かして下さい」と案内し、家族連れを中心に体験参加を促している。3月に開催した第7回大会では江戸川区保健所の協力を得て、ペット防災のコーナーを設け、多くの犬連れ利用者が立ち寄り、新たな参加者層の広がりにつながった。

防災施設の自主点検は毎月1回以上の頻度で継続している。防災施設は常時利用可能な状態を維持して、この1年も有事に備えた。



消火器体験（10月）



消火器体験（3月）



本部テント(職員が解説)



防災トイレ展示



AED講習



ペット防災コーナー



起震車体験(震度7まで)



最新型救急車内覧体験

要望への対応



キッチンカーの出店

前年のアンケートで最も満足度の低かった「売店・飲食サービス」の改善要望に少しでも応えるため、令和7年度の桜花期及び7月の土日に延べ7日間計11台のキッチンカーを出店し、園内の来園者に喜ばれた。



球技グラウンドの草刈り回数の増加

令和7年度は、スポーツ広場内と少年野球場内の草刈りの実施回数を、委託及び直営作業で計12回と前年度に比べて2倍に増やした。特に夏場は2週間に1回の作業を行ない、多くの利用者の要望に応えた。いつしか「いつも短くて良い」との声も届くようになり、利用調整を行う江戸川区葛西事務所とも良好な関係を維持している。

